

鹿児島県内で2016年度、N I E（教育に新聞を）実践校に認定された小学校6校、中学校4校、高校

3校の計13校が新聞を使った授業などに取り組んだ。数回に分けて各校の実践を紹介する。

新聞を広げて課題に取り組む児童



柏原小学校（さつま町）

かごしま

N I E 実践校

「ヒーロー」見つけ紹介

毎月第1火曜日の午前8時15分。全校児童99人が「NIEタイム」として約15分間、新聞と向き合う。7日の活動で3年の本田珠梨さんは県下一周駅伝の写真の切り抜いた。「スポーツの写真や記事が好き。もっと読みたい」と笑顔を見せた。

低学年は新聞に親しむことを掲げ、写真の切り抜きから始めた。中学年は自分の考えで表現することを目指し、輝いている人を見つける「今日のヒーロー」などで読む力や書く力をつけた。

研究実践の初年度。高学年は各紙の読み比べなどを通じ意見を書くことが目標。瀨田りえ子校長は「スピーチの話題を採し新聞を手にする姿を」と話した。（犬塚政志）

記事に親しみ表現磨く

各学級では朝、帰りの学活などの時間に、自分の気になる記事や同世代の投稿について感想を話す1分間スピーチ、発表も続けている。新聞を見比べ、興味、関心を高めてもらおうと、昨年9月から4カ月間は、地方紙、全国紙の計6紙を玄関に展示した。

国語科の吉松美穂教諭は「本文にない言葉を使って題をつけたり、自分の経験と重ねた感想を書いたり、工夫が見られるようになった」と手応えを話す。

さまざま取り組みを通して、生徒の表現力や思考力、判断力の向上が見られるようになったという。（山下博行）



蒲生中学校（始良市）

教室で新聞を読み、意見を交わす生徒